水と地域との繋がりを学ぶ

8/22

中学生が長島ダム管理所の一日管理所長を体験しました

川口管理所長から任命書を受け取り、ダム印発行作業や巡視船パトロールを行う小池さん

「第46回全国日本中学生 水の作文コンクール」で環境大臣賞を受賞された小池翔子（こいけしょうこ）さん（学校法人不二聖心女子学院中学校）が、水に関する職場体験として、長島ダム一日管理所長を体験しました。

小池さんは、川口一彦（かわぐちかずひこ）管理所長から一日のスケジュールとダムの役割の説明を受けた後、任命書と名札、名刺を授与されました。その後、巡視船によるダム湖周辺の点検と、ICT施工現場の確認および安全パトロール、ダム本体の点検を行い一日所長体験が終了しました。

小池さんは体験を振り返り「初めての経験で普段は見られないところも見ることができました。観光客の視点ではなくダムを運営している方の視点を知り大事な経験になりました」と話しました。

エコティ日記

町の自然資源を活かした地域観光事業に取り組む一般社団法人エコティかわね。今回は８月に開催した「かわね・ふるさと自然塾」の様子を報告します。

南アルプスユネスコエコパーク 10周年に向けて（4）

「かわね・ふるさと自然塾」講座の様子

長尾川に住む指標生物を調査

今年は「南アルプスユネスコエコパーク」登録10周年イベントとして、８月に「かわね・ふるさと自然塾」を開催しました。川根本町の豊かな自然を、『動物・植物・昆虫・鳥・星空・山』に分け、純粋にその分野が好きで長年携わってきた地元の方々に、お話していただきました。初めての取り組みでしたが、町内外併せて50名弱の方が参加して下さいました。

感想で一番多かったのが、「身近なのに、知らないことが多くて驚いた」というものです。普段何気なく目にしていても、少し深くのぞくと様々な発見があります。それを見つけられた時に、人生に少し、豊かさと楽しみが生まれるのではないかと思います。

夏休み期間中は、三ツ星学園からも「長尾川の水生生物調査」・「野外でのバードウォッチング」の依頼を受け、探究学習を行う生徒たちをご案内しました。水生生物調査では川の中に実際に入り、指標生物となる生き物を捕獲、その川が綺麗かどうか測りました。調査の結果、カワゲラ・沢ガニなどの綺麗な川に住む生物が見つかりました。嬉しいことに、継続し、他の川も自力で調査を行った生徒もいたそうです。

今年の夏は台風の進路にも悩まされました。気象やその他の要因で、環境はどんどん変化します。自然の美しい川根本町を引き継いでいくため、これからも『未来への種蒔き』を続けたいです。

ECO-T KAWANE
（一社）エコティかわね
川根本町桑野山424-6
☎0547（58）7000
FAX0547（58）7001
Eメール：ecotkawane@gmail.com

まちの話題

練習を信じて全力で臨む

8/5~9

川根高校カヌー部の生徒がインターハイで入賞しました

令和６年度全国高等学校総合体育大会カヌー競技が、大分県豊後高田市「真玉B&G海洋センターカヌー場」で開催されました。

当町からは、川根高校カヌー部の生徒12名が出場しました。

結果は、男子カナディアンフォア種目で500m ７位、200m ８位と２種目で入賞しました。全国インターハイでは、３年連続の入賞です。

試合を終えた選手は「いつもとは違う強い横風に苦戦しましたが、チームのメンバーと自分たちのやってきた練習を信じ、最後まで全力で漕ぐことができました」と当日の様子を振り返りました。

インターハイに出場した川根高校カヌー部の皆さん
「写真提供　川根高校カヌー部保護者会」

地域の賑わい創出を目指して

8/17

久野脇地区で恋金橋イルミネーションと夜店市が開催されました

力強い演奏を披露する地名太鼓の皆さん

恋金橋イルミネーションと夜店市が久野脇地区で開催され、約100名の来場者で賑わいました。このイベントは、久野脇地区の交流人口拡大に取り組む「くのわき未来の会」が主催したもので、今年初開催となります。

ビールや焼き鳥など飲食ブースのほか、ステージでは地名太鼓クラブの演奏や、アニメ「ゆるキャン△」のダンス体験ができ、参加者全員で踊りました。

同会代表の筒井光夫（つついみつお）さん（久野脇）は「大井川鐵道早期復旧と地域活性を願ってイベントを企画しました。また、観光客と地域住民との交流の機会とし、久野脇をPRするという意味でも今後もこうした賑わい創出のイベントを企画していきたいです。今回はとても大勢の方に訪れていただき嬉しく思います」と話しました。

生産性と品質向上を目指して

8/22

町内の茶業関係者が意見交換を行いました

川根本町共同製茶連絡協議会、川根本町農業経営振興会、JA青壮年部による合同の一番茶互評会が農林業センターで開催されました。

講師には、県志太榛原農林事務所の櫻井雅浩（さくらいまさひろ）技師を招き、出品茶の成分分析の結果を踏まえながら改善点やアドバイス等について意見交換を行いました。

出品茶は荒茶やこだわりのお茶を含め全部で21点あり、外観・香気・水色・滋味の４つの項目について互評しました。参加者は「お茶の産地としてまだまだ向上はできる」「こうしてお互いに研究できる場があることは有意義であり、今後も川根茶の品質向上のために続けてほしい」など意見を交わしました。

出品茶を一つ一つ丁寧に評価し記録をつける
各茶園の代表者のみなさん